

＜多摩サービス補助施設＞ 施設中隊環境課、自然・歴史ツアーを実施 *Environmental Office hosts natural/cultural tour at Tama Hills*

October 24, 2019

374th Airlift Wing Public Affairs

第374施設中隊環境課は10月23日、多摩サービス補助施設(東京・稲城市)で稲城市の市民を対象にした自然・歴史ツアー(通称:エコツアー)を実施した。米軍の管理のもと、70年以上ほぼ手付かずのまま保護されている施設を散策するツアーに、今回は25人が参加した。

この場所は、1937年に旧日本陸軍造兵廠火工廠板橋製造所多摩分工場(多摩火薬製造所)として開所され、1946年に米軍が接收し、弾薬庫として使用したことから「多摩弾薬庫」と呼ばれていた。今でも、旧火工廠時代の半地下式コンクリート造りの弾薬庫、木造建物、トンネル、ボイラー設備の一部、擁壁、防空壕跡地などが、ほぼ当時のまま残されている。

一行は、環境課職員の説明を聞きながら森林を徒歩で巡り、この場所に生息する植物や生物を観察したり、歴史的建造物を見学した。

森林に足を踏み入れると、景色はすぐに一変した。参加者は、五感を研ぎ澄ませ、心地よい鳥のさえずり、水路の水のせせらぎ、風に揺れる葉の音を聞きながら、落ち葉と苔に覆われた林道を進んだ。森林に生息する数々の珍しい植物や生物の話、米軍が昼夜行っている生物調査の話に、一行は興味深く聞き入っていた。また、以前この場所で撮影されたキツネ、タヌキ、オオタカの親子などの写真を用いた説明が行われると、参加者からは驚きの声が上がった。

また林道では、随所にひっそりと隠れるようにちりばめられた歴史的建造物に参加者は足を止め、個々の由来を見つめながら幾つもの発見を楽しみ、当時の様子に想いを馳せた。

ツアーに初めて参加したという地元の女性は「近くに住みながら、この場所にこれほど沢山の貴重な植物や歴史が残されているとは全く思いもしなかった。説明の全てがとても興味深く、色々勉強になった。発見や気づきがとても多いツアーだったので、次の機会もまたぜひ参加したい」と目を輝かせていた。



オオタカの親子の話をする環境課の山口美隆さん



旧火工廠時代に建てられた弾薬庫を見学する参加者



旧日本陸軍が使用していた資材運搬用エレベーターと併設された階段の説明に耳を傾ける参加者
(U.S. Air Force Photos by Yasuo Osakabe)